

## 64 保育所における発達障害児に関する実態調査の報告

秩父学園 地域支援課 佐山智洋 新妻里紗 村上功二 齋藤信哉 永吉敏広

### 【はじめに】

保育所での発達障害のある子どもの在籍状況、発達障害に関する保育者の専門性、困難さ、実際に行われている支援の実態について把握することは、保育所における支援の推進、保育者援助、研修内容について考える上で重要であると考えます。そこで本研究では、それらの現状を明らかにし、専門性の向上や、困難さの軽減、支援実施の充実のための方法について検討することとする。

### 【方法】

X市内の全保育所の保育者および園長を対象としアンケート調査を実施した。アンケートでは、発達障害またはその疑いのある子どもの人数や、発達障害に関する保育者の「専門性」「困難さ」「支援の実態」等について回答を求めた。調査は2015年2月から3月に行った

### 【結果】

発達障害またはその疑いのある子どもの在籍率は、2～5歳児クラスで10%前後となった。「専門性」については、SST、構造化、感覚統合、行動分析といった「専門的支援知識」に関する項目の得点が相対的に低かった。「困難さ」については、衝動的な行動への対応、パニックへの対応など「子ども対応」に関する項目の得点が相対的に高かった。また関係機関等との連携や保護者対応に関する項目では、保育士歴が長くなるほど、困難さの得点が高くなる傾向が見られた。「支援の実態」について、スケジュールの使用、視覚的教材の使用といった「発達障害的支援」に関する項目の得点が相対的に低かった。

### 【考察】

今回の調査から、保育所における発達障害またはその疑いのある子どもの在籍率の高さや、発達障害に関する支援を進める上での課題が示された。総じて言えば、保育所において発達障害またはその疑いのある子どもが多く在籍しているが、保育者の発達障害に関する支援の知識はまだ十分に周知されておらず、実際の支援に繋がっていない現状が見えてきた。また保育者は発達障害のある子どもへの対応に困難さを感じていることも示された。保育者の発達障害に関する専門性の向上のためには、研修や訪問支援は必要不可欠である。研修では、支援を進める上で必要な専門的支援知識の周知を目指して取り組む必要がある。研修を実施する際は、支援の実践に繋がるような具体的な内容であることが望まれるだろう。また保育士歴の長い保育者にとっては、他機関等との連携や、保護者への対応に困難さを感じる傾向が高まり、ベテランの保育者にとって特有の課題と考えられ、保育者の経歴に応じた研修を実施する必要があるだろう。実際の支援を進めるためには、専門機関の助言も必要である。保育所等訪問支援や巡回支援が活用されることが期待される。また保育所において特別支援に特化した職員を配置するといった支援体制の整備が必要であると考えます。秩父学園では入所、通所での知見を活かし、研修や訪問支援を実施しており、今後も保育所での発達障害支援の充実に貢献していきたい。